

大日精化工業株式会社

決算説明会資料

証券コード：4116

2022年6月



1. 当社について



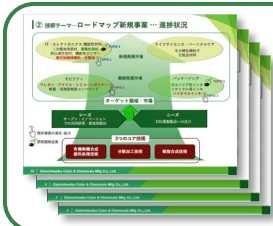
当社の概要や沿革、事業セグメントと販売先業界に加え、私たちの強みを紹介しています。

2. 2022年3月期決算概要



当社及び事業セグメントごとの決算概要と通期業績予想を紹介しています。

3. 中期経営計画 進捗状況



2021年8月に公表した中期経営計画初年度の進捗状況を技術主導、ESG、海外戦略の3つの柱に分けて紹介しています。

1. 当社について

会社概要

企業理念

「人に興味を持とう」 「新しいことに興味を持とう」 「未来に興味を持とう」

会社名	大日精化工業株式会社 Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.
本社所在地	東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7番6号
創業	1931年10月16日
代表者	代表取締役社長 高橋 弘二（たかはし こうじ）
資本金	100億39百万円（東京証券取引所 プライム市場）
従業員数	連結3,750名（2022年3月31日現在）
連結売上高	1,219億33百万円（2022年3月期）
グループ会社	国内9社 海外19社

沿革

創業

コア技術
の確立

推進

拡大

深化

1931年 創業

顔料の多くを輸入に頼っていたことを憂い
顔料の国産化を目指して創業



創業者 高橋 義博

有機無機合成
顔料処理技術

樹脂合成
技術

分散加工
技術

3つのコア技術

1980年代～海外生産拠点の強化

- 1988年 アメリカに生産拠点設立
- 1989年 タイに生産拠点設立
- 1995年 インドネシア、東莞に生産拠点設立
- 2003年 上海に複合生産拠点設立
- 2006年 ベトナムに生産拠点設立
- 2008年 インドに生産拠点設立

環境対応型製品の開発

- 1980年 キナクリドン顔料を上市
- 1985年 シリコーン・ウレタン樹脂
- 1985年 天然物由来ポリマー キチン・キトサン
- 1986年 軟質硬質両用塩ビ用着色剤（CCMと連動）
- 1998年 ペットボトル用剥離脱色型グラビアインキ
- 1998年 非塩ビ用高濃度マスターバッチ

2000年代～新分野への展開と基盤事業整備

- 2013年 メキシコに生産拠点設立
- 2015年 インドネシアの生産能力増強
- 2017年 インドの生産能力増強
- 2019年 佐倉製造事業所、アメリカ、タイの生産能力増強

ESG貢献製品の拡大

- 1998年 I分散体開発
- 2003年 CF用顔料本格販売
- 2005年 フィルム用水性フレキシオンキ
- 2011年 CO₂を原料にしたウレタン樹脂
- 2013年 バイオマスTPU
- 2016年 バイオマス・グラビアインキ
- 2018年 バリア性コーティング剤・接着剤
- 2021年 生分解性微粒子

2021年 坂東製造事業所

佐倉テクノロジー
イノベーションセンター



1960年代～海外進出の本格化

- 1962年 香港に営業拠点設立後、マニラ、ソウル、ニューヨークに開設
- 1968年 東海製造事業所開設
- 1974年 台湾に生産拠点設立
- 1984年 ミラノに営業拠点設立

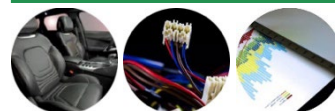
1938年 顔料生産開始

非色彩分野への事業拡大

- 1967年 ウレタン樹脂事業参入、液状合成皮革用ポリウレタンを上市
- 1970年 食品包装フィルム用グラビアインキを開発上市
- 1975年 日本初のコンピュータカラーマッチングシステムを発表
- 1976年 紫外線硬化型コーティング剤事業参入
- 1977年 熱可塑性ウレタンエラストマーを上市

1940年代～顔料加工分野への進出

- 1944年 顔料の2次加工製品として、印刷インキ上市
- 1948年 塩化ビニル用着色剤「ピニルトーナー」上市
- 1950年 塩ビ用グラビアインキを上市
- 1953年 合成繊維原液着色剤、捺染材料・着色剤上市
- 1955年 各種樹脂用着色剤の開発上市



1940年度

1960年度

1980年度

2000年度

2020年度

(億円)
2,000

1,500

1,000

500

国内拠点

- 営業拠点 13 拠点
- 製造拠点 14 拠点
- 研究開発拠点 6 拠点



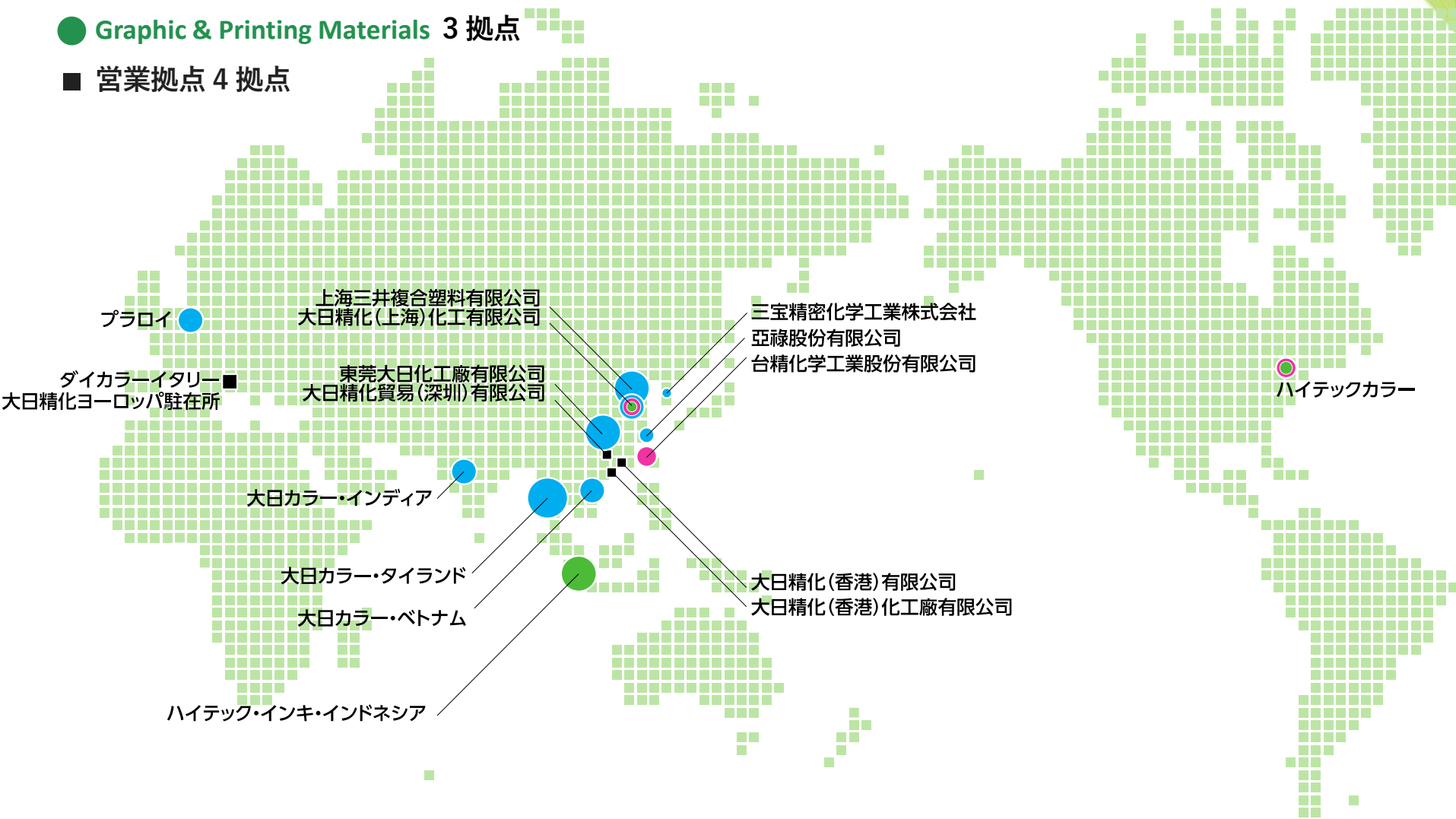
海外拠点

● Color & Functional Products 9 拠点

● Polymer & Coating Materials 3 拠点

● Graphic & Printing Materials 3 拠点

■ 営業拠点 4 拠点



事業セグメント区分の変更（2022年3月期より）

旧セグメント—製造工程

化成品

有機顔料

無機顔料

液状着色剤

機能性材料

繊維用着色剤

プラスチック用
着色剤

顔料分散体

プラスチック用
機能性マスターバッチ
及びコンパウンド

化学品

UVコート剤

液状着色剤

プラスチック用
着色剤

プラスチック用
機能性マスターバッチ
及びコンパウンド

高分子

ウレタン樹脂

バイオマス由来高分子

天然物由来高分子

印刷総合

グラビアインキ

フレキシインキ

オフセットインキ

新セグメント—製品特性

Color & Functional Products

有機顔料

無機顔料

液状着色剤

機能性材料

プラスチック用
着色剤

顔料分散体

プラスチック用
機能性マスターバッチ
及びコンパウンド

繊維用着色剤

Polymer & Coating Materials

ウレタン樹脂

UVコート剤

バイオマス由来高分子

天然物由来高分子

Graphic & Printing Materials

グラビアインキ

フレキシインキ

オフセットインキ

当社事業セグメントと最終製品のイメージ

	Color & Functional Products	Polymer & Coating Materials	Graphic & Printing Materials
	顔料及び顔料の2次加工製品	合成樹脂及び特殊コーティング剤	パッケージ用及び広告出版用インキ
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> 顔料・カラーベース 繊維用着色剤・捺染剤 プラスチック用着色剤・機能剤 	<ul style="list-style-type: none"> ウレタン樹脂 コーティング剤 天然物高分子 	<ul style="list-style-type: none"> グラビアインキ フレキソインキ オフセットインキ
主な利用用途	<ul style="list-style-type: none"> 塗料・印刷インキ トナー・IJプリンタ用インキ LCDカラーフィルタ 建材・日用品・紙製品 	<ul style="list-style-type: none"> 合成皮革(家具、衣料) 車両内装材・建材・日用品 電線・ケーブル・ベルト 化粧品 	<ul style="list-style-type: none"> 食品・日用品包装材 食品用トレー 
	<ul style="list-style-type: none"> 車両・産業資材 インテリアファブリック アパレル製品 紙 	<ul style="list-style-type: none"> LCDパネル 加飾用フィルム パソコン・事務機器 	<ul style="list-style-type: none"> 飲料ボトルラベル 産業資材・建材 ダンボール・包装材 
	<ul style="list-style-type: none"> 車両 家電・日用品・アウトドア用品 産業資材・農業資材・建材 食品包装・トイレタリー 	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品 排水浄化・水処理 	<ul style="list-style-type: none"> 広告・書籍 パッケージ 

当社セグメントの販売先業界

B to B メーカーとして多様な業界に最適な製品を提供

Color & Functional Products 顔料及び顔料の2次加工製品

輸送機器

建材・設備

産業資材

包装

情報・電子

Polymer & Coating Materials 合成樹脂及び特殊コーティング剤

輸送機器

建材・設備

産業資材

衣料品・服飾品

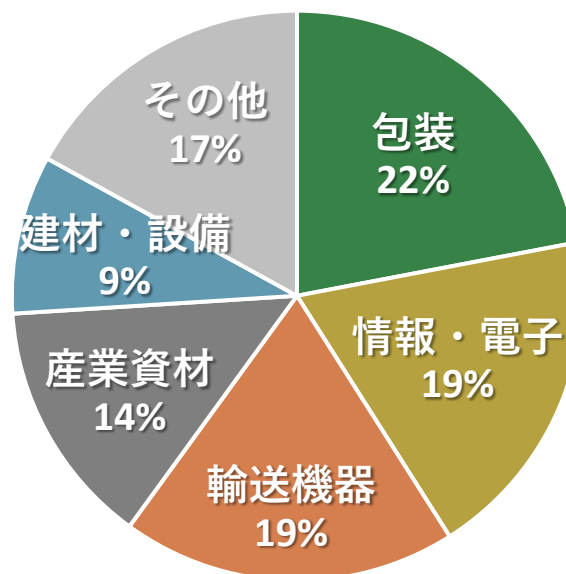
情報・電子

Graphic & Printing Materials パッケージ用及び広告出版用インキ

包装

広告・出版

2022年3月期（国内海外合計）



お取引先

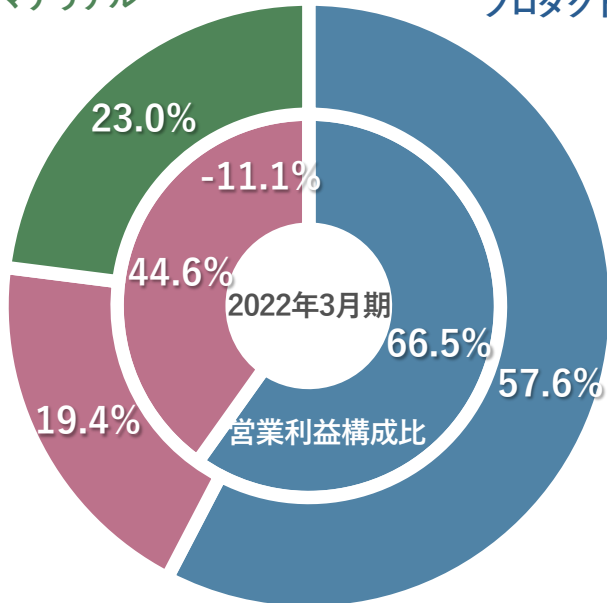
大日精化工業の製品を用いて、
多様な最終製品に加工



当社セグメント製品と売上・利益

グラフィック&
プリンティング
マテリアル

カラー&
ファンクショナル
プロダクト



売上構成比

ポリマー&
コーティング
マテリアル

Color & Functional Products 顔料及び顔料の2次加工製品



顔料



プラスチック用着色剤

有機顔料

無機顔料

機能性材料

液状着色剤

顔料分散体

プラスチック用
着色剤

繊維用着色剤

プラスチック用
機能性マスターバッチ
及びコンパウンド

Polymer & Coating Materials 合成樹脂及び特殊コーティング剤



ウレタン樹脂



コーティング剤

ウレタン樹脂

UVコート剤

バイオマス由来高分子

天然物由来高分子

Graphic & Printing Materials パッケージ用及び広告出版用インキ



グラビアインキ



オフセットインキ

グラビアインキ

フレキソインキ

オフセットインキ

私たちの強み | Our Strength

Color & Functional

Polymer & Coating

Graphic & Printing

「彩り」と「アイデアをカタチにする」化学メーカー

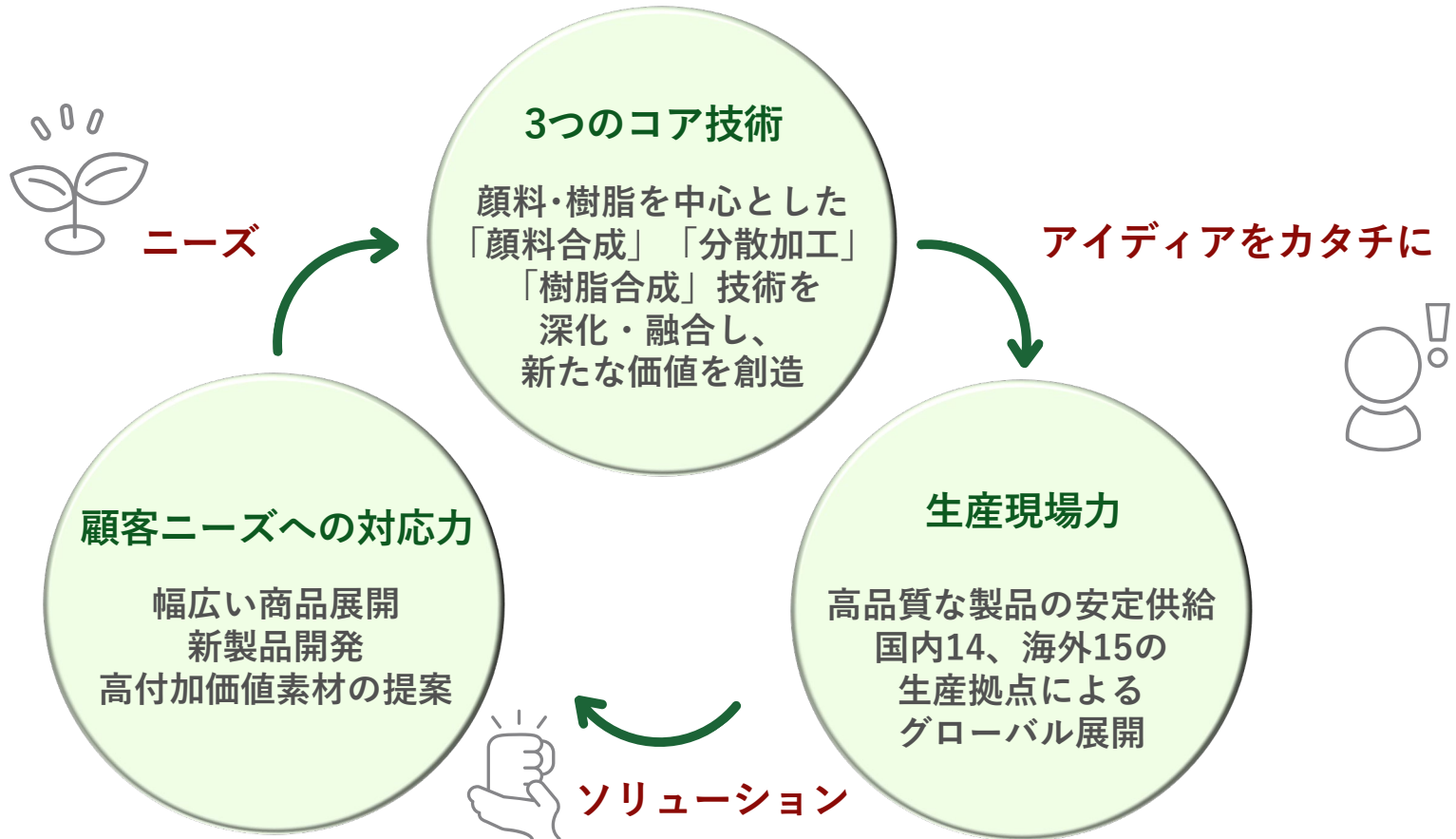
3つのコア技術をもとに、社会や環境のニーズに即した付加価値の高い素材を生み出す会社

3つの コア 技術	有機無機合成 顔料処理		有機顔料	無機顔料	機能性材料
	分散 加工	液体	液状着色剤	顔料分散体	UVコート剤
			グラビアインキ	フレキソインキ	オフセットインキ
	固体	プラスチック用 着色剤	繊維用着色剤	プラスチック用 機能性マスターバッチ 及びコンパウンド	
樹脂合成		ウレタン樹脂	天然物由来高分子	バイオマス由来高分子	

私たちの強み | Our Strength

「彩り」と「アイデアをカタチにする」化学メーカー

顔料を祖業に、創業以来90年にわたり磨いた技術で、
社会や環境のニーズに即した付加価値の高い素材を生み出す会社



ものづくりを通じた社会・環境への貢献

2. 2022年3月期決算概要

決算概況・連結損益計算書

(単位：億円・切捨)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
売上高※1	1,066	1,219	+152	+14.3%
営業利益	49	74	+25	+51.3%
経常利益	56	83	+27	+48.1%
親会社株主に係る 当期純利益	63	61	△1	△2.8%
EBITDA※2	97	127	+29	+30.5%
研究開発費	26	27	+1	+4.1%
海外売上高比率※3	24.5%	26.4%	-	-
1株当たり当期純利益	341.95円	333.70円	-	-
為替レート	\$ 106円 €123円	\$ 112円 €131円	-	-
ナフサ価格	32,825円	50,175円	-	-

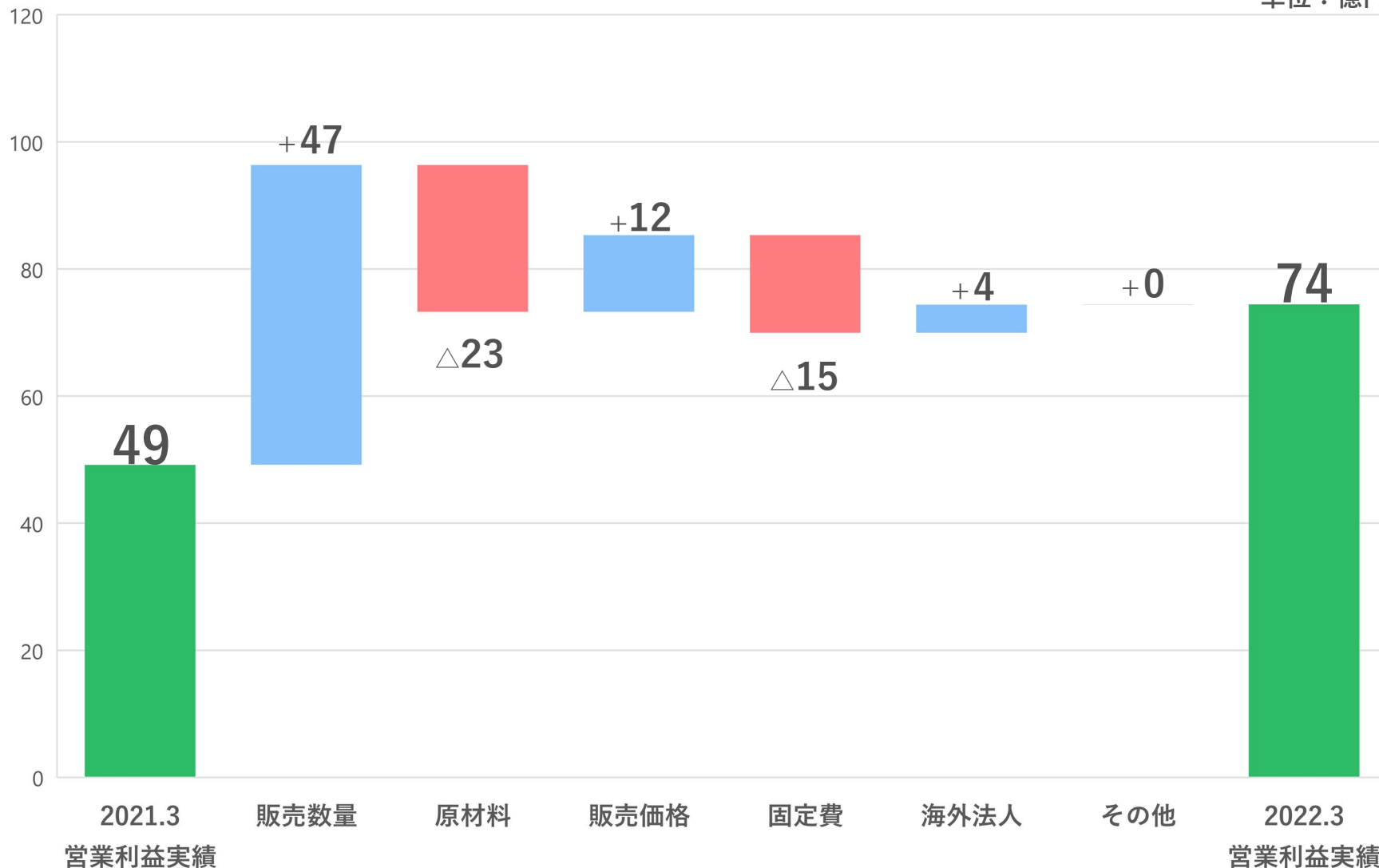
※1 2021年3月期売上高は、「収益認識に関する会計基準」を適用したと仮定した場合の組替後の金額であり、同基準適用前の開示済売上高は1,384億円である。

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 2021年3月期海外売上高比率は、「収益認識に関する会計基準」を適用したと仮定した場合の数値であり、同基準適用前の海外売上高比率は29.8%である。

決算概況・連結営業利益の増減要因 (前期・当期実績比較)

単位：億円



セグメント別概況

(単位：億円・切捨)

売上高	2021年3月期実績	2022年3月期実績	増減	増減率
Color & Functional Products	597	702	+104	+17.6%
Polymer & Coating Materials	197	236	+38	+19.3%
Graphic & Printing Materials	268	280	+11	+4.2%
売上高※	1,066	1,219	+152	+14.3%

※ 2021年3月期売上高は、「収益認識に関する会計基準」を適用したと仮定した場合の組替後の金額であり、同基準適用前の売上高は1,384億円である。

営業利益

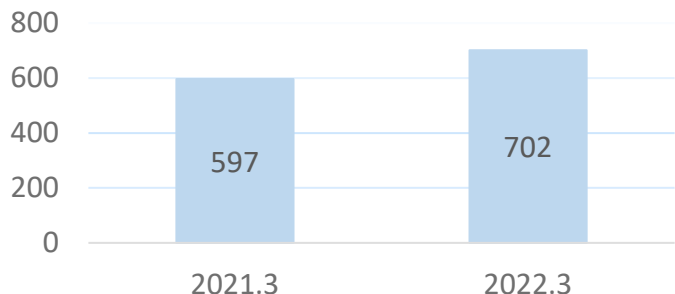
(単位：億円・切捨)

Color & Functional Products	15	49	+33	+215.8%
Polymer & Coating Materials	26	33	+6	+24.3%
Graphic & Printing Materials	6	△8	△15	-
営業利益	49	74	+25	+51.3%

セグメント別概況・カラー&ファンクショナル プロダクト

Color & Functional Products 顔料及び顔料の2次加工製品

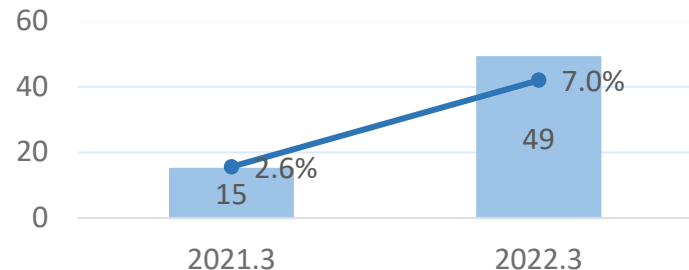
売上高



【売上高】

- ✓ 輸送業界向けのコンパウンド・着色剤は、上期はコロナ禍からの回復が続き、下期は半導体等の部品不足による自動車生産減産の影響を一部受けたが国内外ともに好調に推移
- ✓ 情報電子業界向けの顔料及び分散体は、巣ごもり特需の継続によるディスプレイ用途及びオフィス事務用途の回復により好調に推移

営業利益・営業利益率



【営業利益】

- ✓ 顔料・樹脂など原油価格上昇及び需給逼迫により原材料価格が高騰
- ✓ 原材料価格上昇に対する販売価格見直しを継続
- ✓ 旅費・交際費等の活動経費は低水準で推移

	2021.3	2022.3
EBITDA※1	46	79
研究開発費	11	11
設備投資額※2	20	21

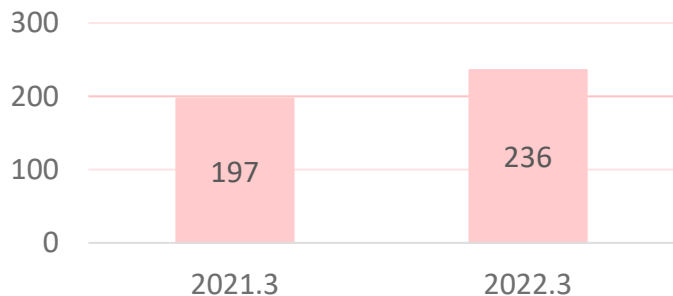
※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※2 資産計上ベース（建設仮勘定含む）

セグメント別概況・ポリマー&コーティング マテリアル

Polymer & Coating Materials 合成樹脂及び特殊コーティング剤

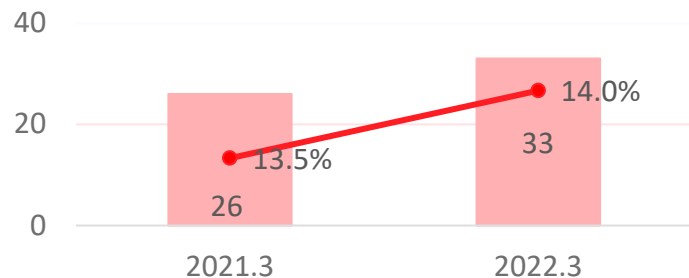
売上高



【売上高】

- ✓ ウレタン樹脂は、輸送機器の内装材料、産業資材向けが好調に推移、衣料品服飾品向け用途の需要が回復
- ✓ 輸送業界向けは、一部で自動車生産減産の影響を受けたが、採用車種の拡大もあり好調に推移
- ✓ 情報電子業界向けのUVコート剤は、ディスプレイ用途が好調に推移

営業利益・営業利益率



【営業利益】

- ✓ 樹脂・溶剤など原油価格上昇及び需給逼迫により原材料が高騰も販売価格の見直しを実施し影響は限定的
- ✓ 海運等の物流網混乱等により航空便利用によるコスト負担
- ✓ 坂東製造事業所稼働開始及び佐倉テクノロジー・イノベーションセンター開設による移転費用・減価償却費等の固定費増加

	2021.3	2022.3
EBITDA※1	37	45
研究開発費	6	7
設備投資額※2	19	10

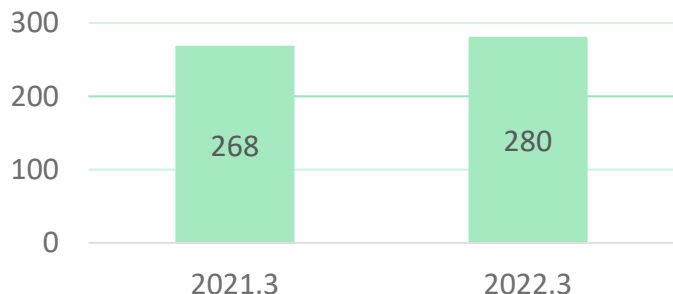
※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※2 資産計上ベース（建設仮勘定含む）

セグメント別概況・グラフィック&プリンティング マテリアル

Graphic & Printing Materials パッケージ用及び広告出版用インキ

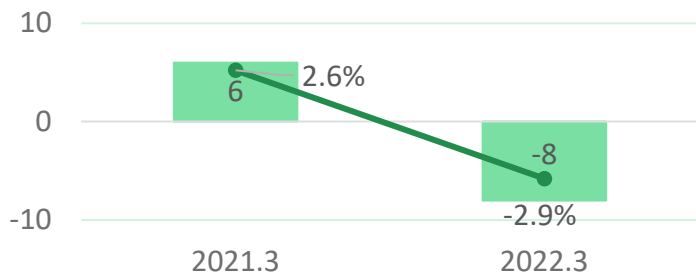
売上高



【売上高】

- ☑ 包装業界向けのグラビアインキは、国内は堅調、海外はアジア子会社で新型コロナウイルス感染症拡大の影響により低調に推移
- ☑ 広告出版業界向けのオフセットインキは、夏場の緊急事態宣言発令の影響によるチラシ需要の低下等により低調に推移

営業利益・営業利益率



【営業利益】

- ☑ 原油価格上昇によるナフサ連動資材の高騰、需給逼迫により資材価格が上昇
- ☑ 原材料価格高騰に対して販売価格の見直しを継続
- ☑ 坂東製造事業所稼働により減価償却費等の固定費増加

	2021.3	2022.3
EBITDA※1	13	1
研究開発費	3	3
設備投資額※2	51	18

※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※2 資産計上ベース（建設仮勘定含む）

連結財政状態

(単位：億円・切捨)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
資産	1,977	1,967	△10	△0.5%
負債	940	862	△78	△8.3%
純資産	1,036	1,104	+68	+6.6%
DEレシオ	0.42	0.30	-	-
自己資本比率	51.5%	55.1%	-	-
1株当たり純資産額	5,516.08円	5,868.51円	-	-
ROA	2.9%	4.2%	-	-
ROE	6.5%	5.9%	-	-

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円・切捨)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増減	増減率
営業CF	+115	+75	△39	△34.2%
投資CF	△37	△66	△28	+76.3%
財務CF	△3	△114	△110	-
現金及び現金同等物の 期末残高	344	248	△95	△27.8%
債務償還年数 ^{※1}	3.7年	4.3年	+0.6年	-
インタレスト・ カバレッジ・レシオ ^{※2}	28.4倍	22.3倍	△6.1	-

※1 債務償還年数 = 有利子負債 ÷ 営業CF

※2 インタレスト・カバレッジ・レシオ = 営業CF ÷ 支払利息

通期業績予想

(単位：億円・切捨)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
売上高	1,219	1,280	+60	+5.0%
営業利益	74	52	△22	△30.2%
経常利益	83	58	△25	△30.2%
親会社株主に係る 当期純利益	61	38	△23	△38.4%
為替レート	\$ 112円 €131円	\$ 113円 €132円	-	-
ナフサ価格	50,175円	88,000円	-	-

通期業績予想・セグメント別

(単位：億円・切捨)

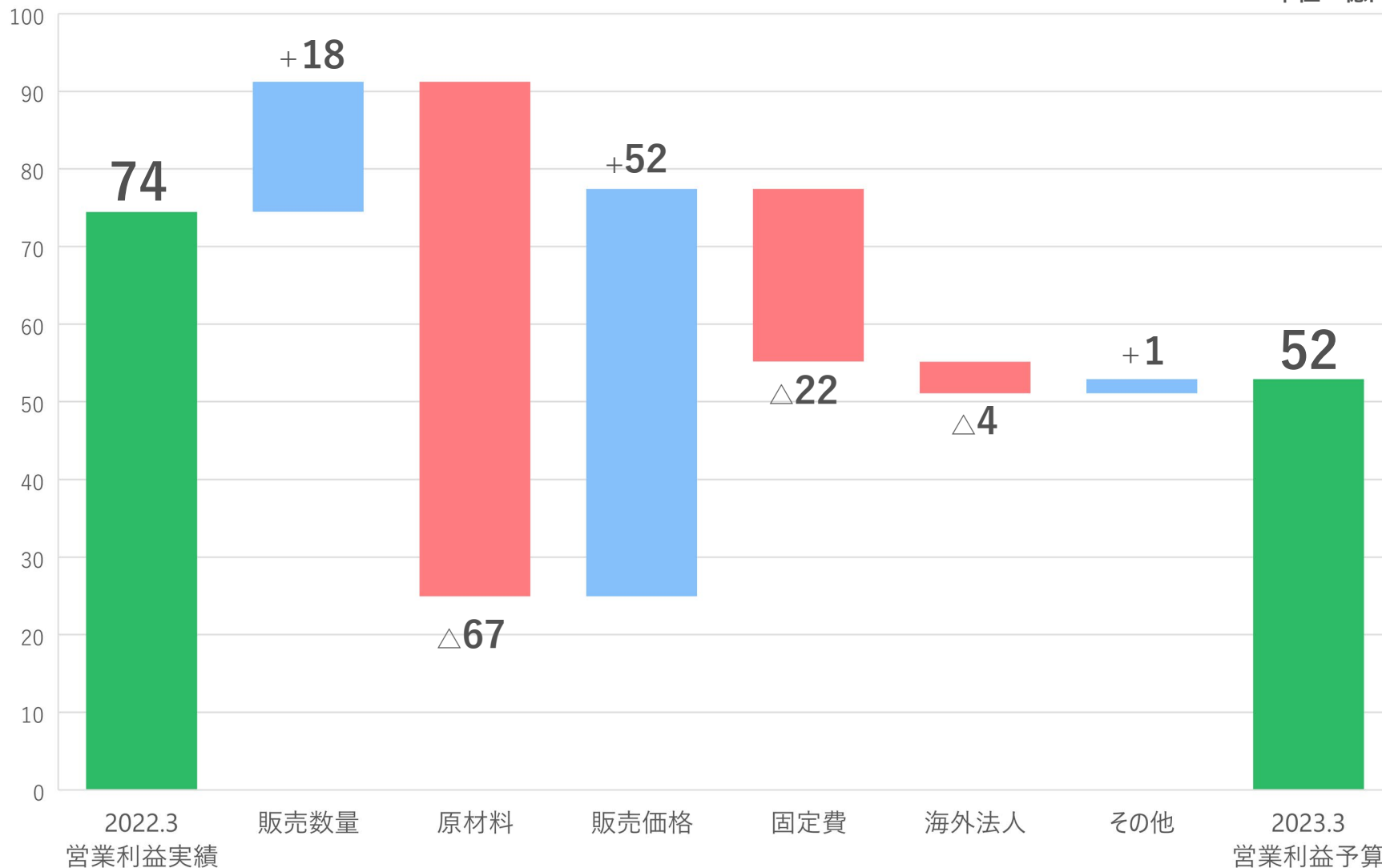
売上高	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
Color & Functional Products	702	722	+19	+2.8%
Polymer & Coating Materials	236	255	+18	+8.0%
Graphic & Printing Materials	280	302	+21	+7.8%
売上高	1,219	1,280	+60	+5.0%

営業利益

Color & Functional Products	49	37	△12	△24.9%
Polymer & Coating Materials	33	25	△8	△24.4%
Graphic & Printing Materials	△8	△11	△2	-
営業利益	74	52	△22	△30.2%

通期業績予想・連結営業利益の増減要因 (当期実績・翌期予想)

単位：億円



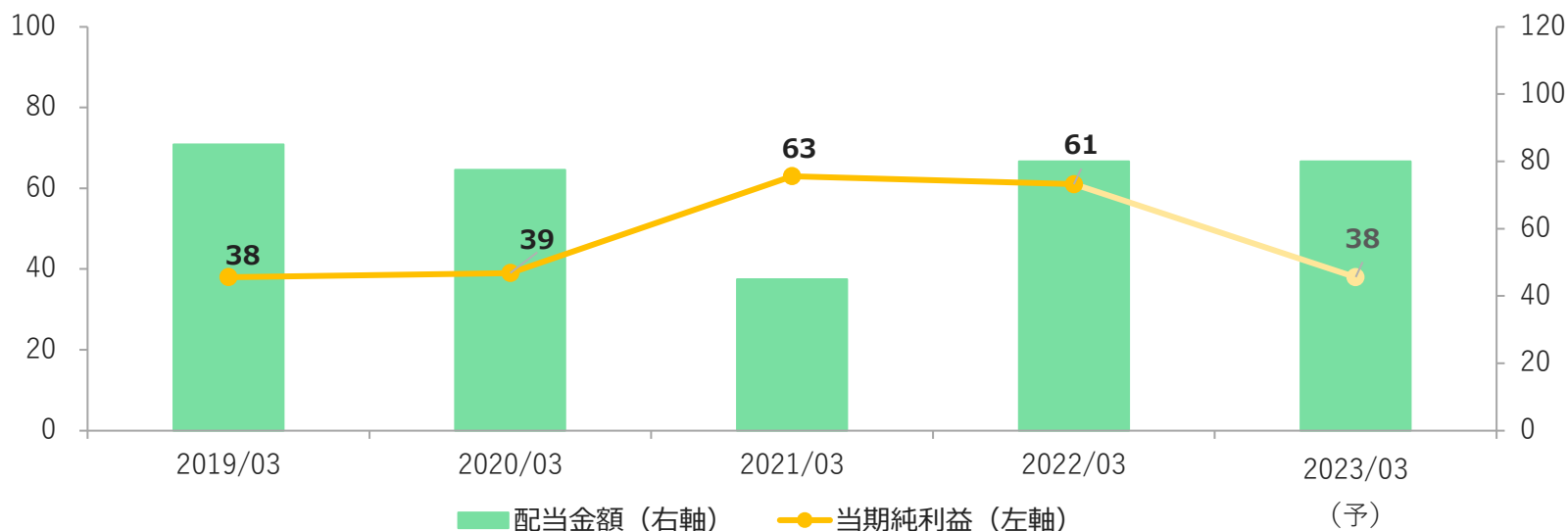
決算概況・株主還元（配当金）

【配当政策】

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の観点から、将来の事業展開、経営基盤の強化並びに内部留保の充実等の事項を総合的に勘案しつつ、株主各位への利益還元を重視した配当政策を継続的に実施することを基本方針としております。

【配当方針】

- ・業績に連動した安定的、継続的な株主還元を着実に実施
- ・財務体質の健全性を維持しながら、成長に向けての投資及び環境投資へ優先的に配分
- ・配当性向2～3割程度を計画



2019年3月期

2020年3月期

2021年3月期

2022年3月期

2023年3月期

1株当たり配当 (円)

85.0

77.5

45.0

80.0

80.0

配当性向

40.7%

36.2%

13.2%

24.0%

38.9%

3. 中期経営計画 進捗状況

① 長期ビジョン、基本戦略

「10年後のありたい姿」

ミッション

- ✓ 技術力を生かしニッチマーケットで社会に貢献し続ける
- ✓ サステナブル社会の実現に向けた課題解決と新たな価値創造に取り組む

基本戦略

- ✓ 資本効率を重視した経営（ROE 9%以上、ROA 5%以上）
- ✓ 技術主導による競争優位性の確保
- ✓ サステナブル社会の実現に向けたESG重視の経営推進
- ✓ 事業基盤の強化のための海外事業の拡大（海外売上高向上）

① 長期ビジョン、基本戦略—戦略の方向性

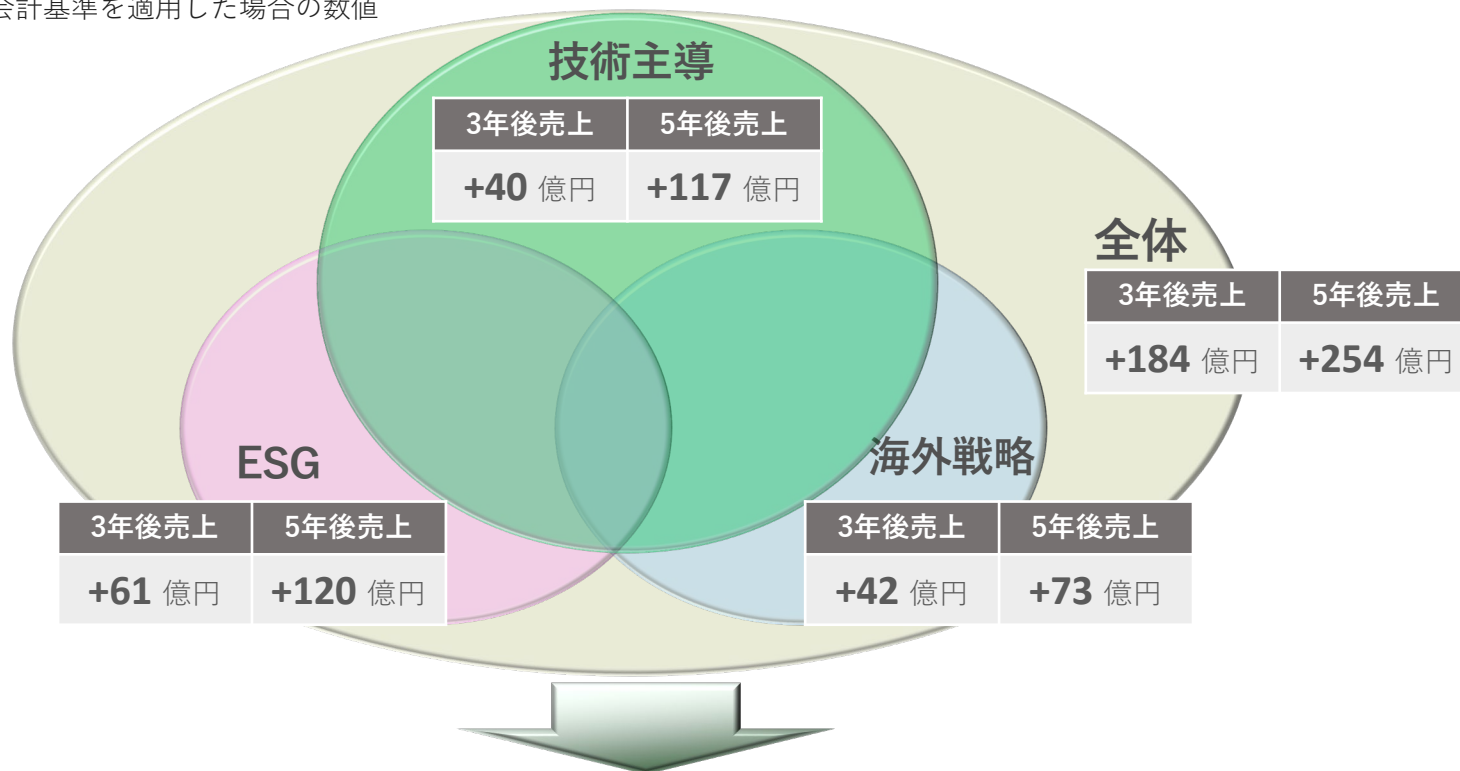
2021.3月実績

売上	営業利益
1,066 ^{※1} 億円 (1,384)億円	49 億円

3年後（2024.3月）数値目標 5年後（2026.3月）数値目標

売上	営業利益	売上	営業利益
1,250 億円	87 億円	1,320 億円	120 億円

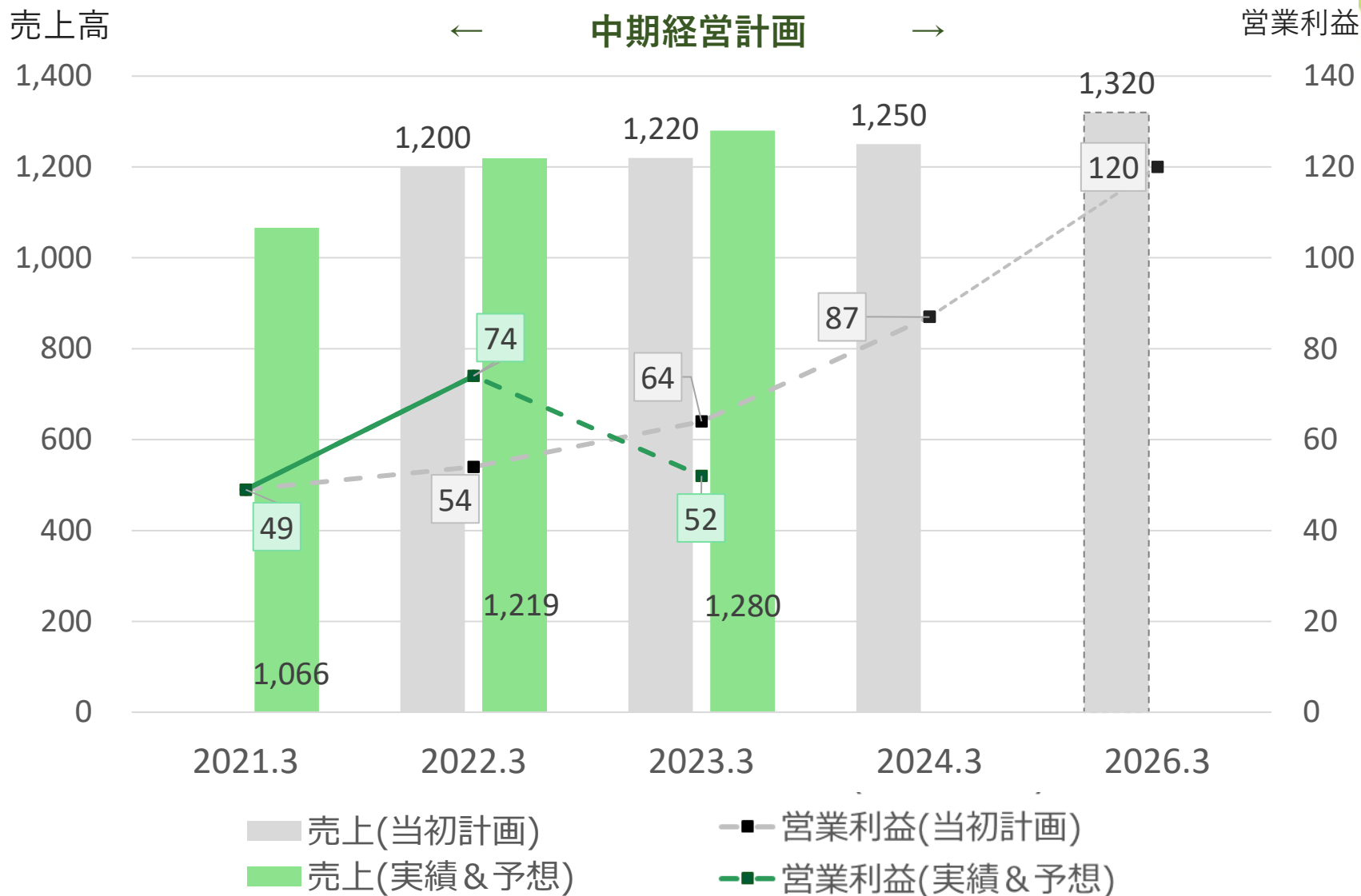
※1 収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値



ROE 9%以上、ROA 5%以上を産み出す利益体制の構築

中期経営計画 業績見通し

(金額：億円)



① 長期ビジョン、基本戦略—ロードマップ

成長シナリオと10年後の位置づけ

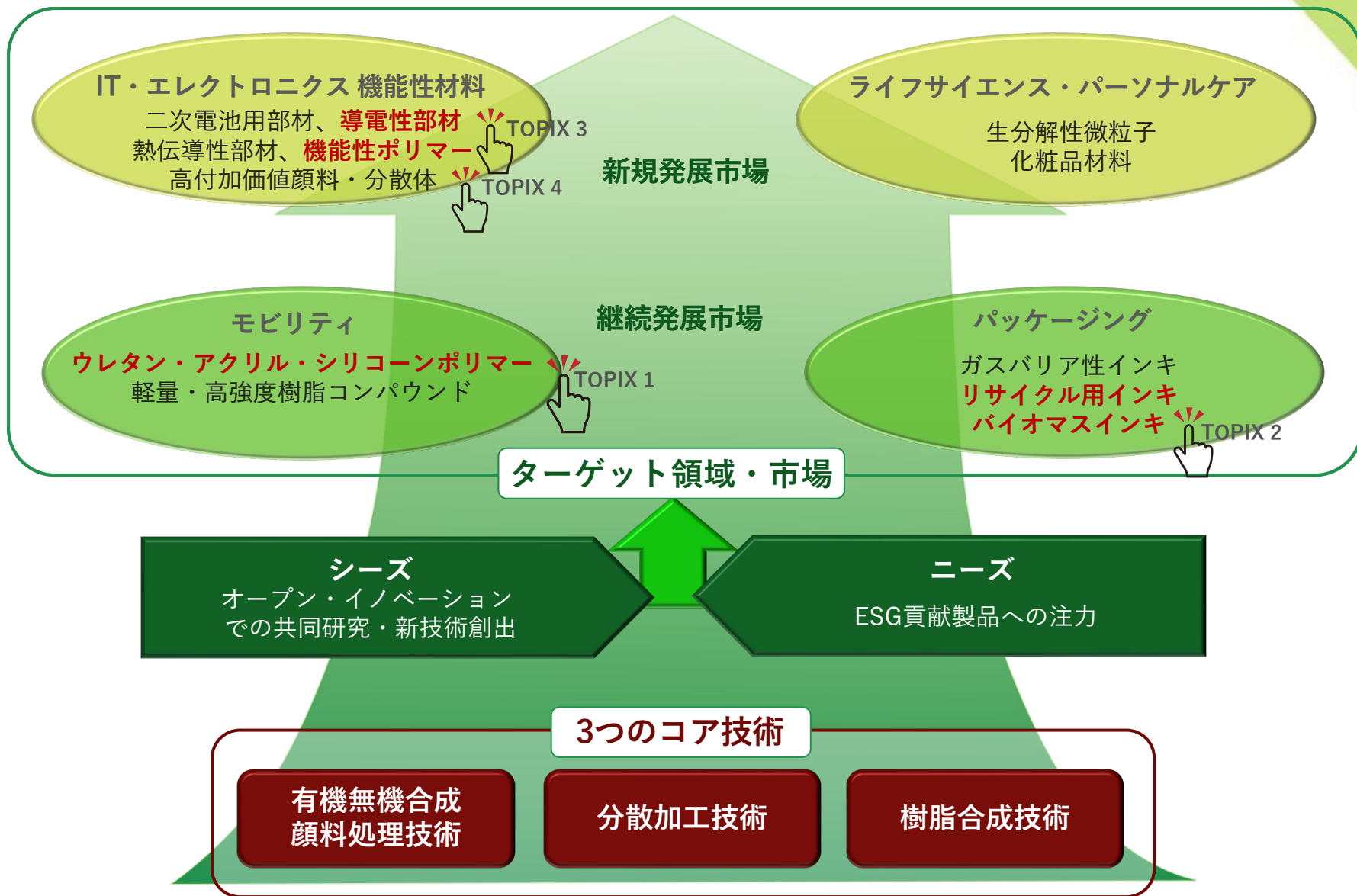


- ・コロナ禍からの回復
- ・既存事業の着実な推進
- ・技術開発強化
(ESGを中心とした新規事業)
- ・海外市場開拓 (北米、EU、インド)

- ・資本効率の高い利益体制構築
- ・新規事業の実績化加速
- ・海外市場戦略 (資本提携、M&A)

- 資本効率の向上
(ROE、ROA目標の達成)
- 収益力の向上
- エクセレントカンパニーの実現
- 国内海外比率の適正化

② 技術テーマ—ロードマップ°新規事業



② 技術テーマ—技術主導による競争優位性の確保… 既存事業の進化・拡大



事業化段階



上市済

モビリティ

水性ポリウレタン

ポリウレタンの水性化

概要 合成擬革、家具、車載用内装材などの用途に使用されており、表面に機能性を付与する重要な素材

特徴 従来は油性環境下でしか製造できなかった風合い豊かなポリウレタンを独自の樹脂合成技術で水性化に成功

- ・ウレタン樹脂分の比率が高く、塗工液乾燥時のエネルギー削減、輸送コストの削減に貢献
- ・溶液中のウレタン樹脂分の比率が高くコーティングした際の厚膜化が可能
- ・当製品の表面処理剤用途は、バインダーや触感材なども自社製造しており、顧客ニーズに合った機能性を細かく設定可能

価値 EV車向けには耐久性、耐薬品性、軽量化や、車載空間のデザイン性向上に貢献

今後 積極的な設備投資による増産で、ESG貢献製品売上増を計画



② 技術テーマ—技術主導による競争優位性の確保… 既存事業の進化・拡大



パッケージング バイオマスインキ リサイクル用インキ

各種環境配慮型インキ（バイオマスインキ 水性インキ リサイクル用インキ）

- 概要** サスティナブル社会へ貢献する各種環境配慮型インキ
- 特徴**
- バイオマスインキ
 - ・分散配合技術により高い印刷適性をもつバイオマスインキを開発
 - 水性インキ
 - ・フレキシインキにおいて**完全水性化**を達成
 - リサイクル用インキ
 - ・フィルムリサイクル用のアンカーコート剤や**アルカリ脱離可能なインキ**を開発

- 価値**
- VOC削減へ貢献
 - ・フレキシインキ、グラビアインキの水性化
 - CO2削減へ貢献
 - ・再生可能資源や二酸化炭素を原料としたウレタンを利用したバイオマスインキ
 - 循環型社会へ貢献
 - ・インキ被膜を脱離させることで、基材フィルムのリサイクルを促進

今後 高性能な各種環境配慮型インキを投入していく



② 技術テーマ—技術主導による競争優位性の確保… 研究開発成果



市場投入段階

製品化に向けた開発の進展

IT・エレクトロニクス 機能性材料

導電性部材 (カーボン分散体)

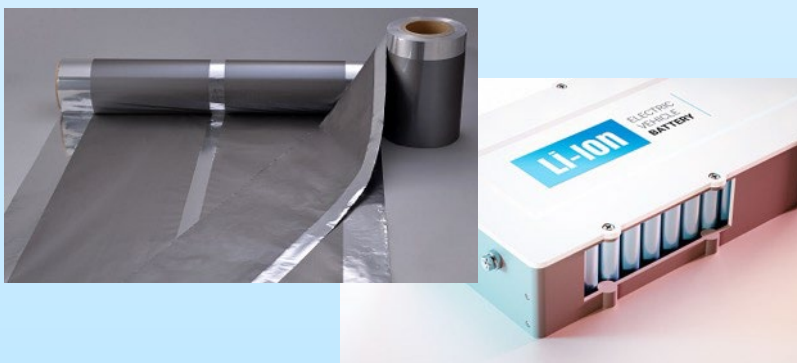
LiB (リチウムイオン電池) 集電体用導電性コート材

技術的特徴

- ・ 導電性カーボンを**当社独自の配合処方**で分散した水分散体
- ・ 塗布後の乾燥膜は、導電性、金属密着性、耐溶剤性、耐水性に優れる。

用途候補

- ・ LiBやキャパシタの集電体向けコーティング材



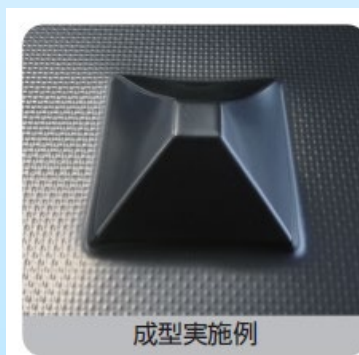
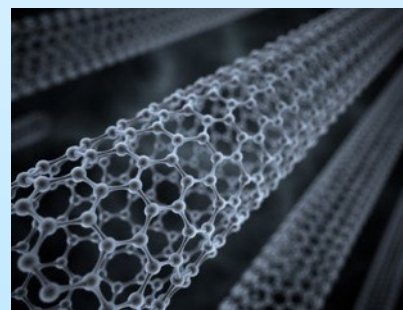
導電性塗料、コーティング材料

技術的特徴

- ・ **コア技術である顔料分散技術を応用し**、難分散性CNT (カーボンナノチューブ) の高分散化達成
- ・ **高濃度かつ低粘度**で用途の自由度が高い
- ・ 乾燥塗膜はフレキシブルな変形を施しても導電性を維持

用途候補

- ・ フレキシブル素材、真空成型品などへの導電性付与



② 技術テーマ—技術主導による競争優位性の確保… 研究開発成果



TOPIX 4

市場投入段階

製品化に向けた開発の進展

IT・エレクトロニクス機能性材料

機能性ポリマー（HPUヒドロキシポリウレタン）

ガスバリアコーティング材

技術的特徴

- ・ **CO2を原材料**に使用したオンリーワン素材
- ・ **ハイバリア性**を有する機能性コート素材
- ・ **ノンハロゲンタイプ**

用途候補

- ・ **フィルム用バリア性コーティング材**
単一基材でのハイバリア性確保
モノマテリアル化へ貢献
- ・ **紙用バリア性コーティング材**
脱プラを実現する包装用素材として提案中
包装材への展開に向けてPL取得、FDA申請中



③ ESGテーマーサステナブル社会の実現に向けた、ESG重視の経営推進

持続可能な社会の実現を目指し、様々な課題解決と社会に役立つ価値創造に向けて、自らの改革とガバナンスの強化に努めます

地球規模での環境問題や社会環境が急速に変化する中で、サステナブル社会の実現に向けて、我々企業は、脱炭素化、資源循環をはじめとする社会的課題の解決、自然災害やパンデミックに対するレジリエンスの強化などに機敏に対応する事が重要と認識。

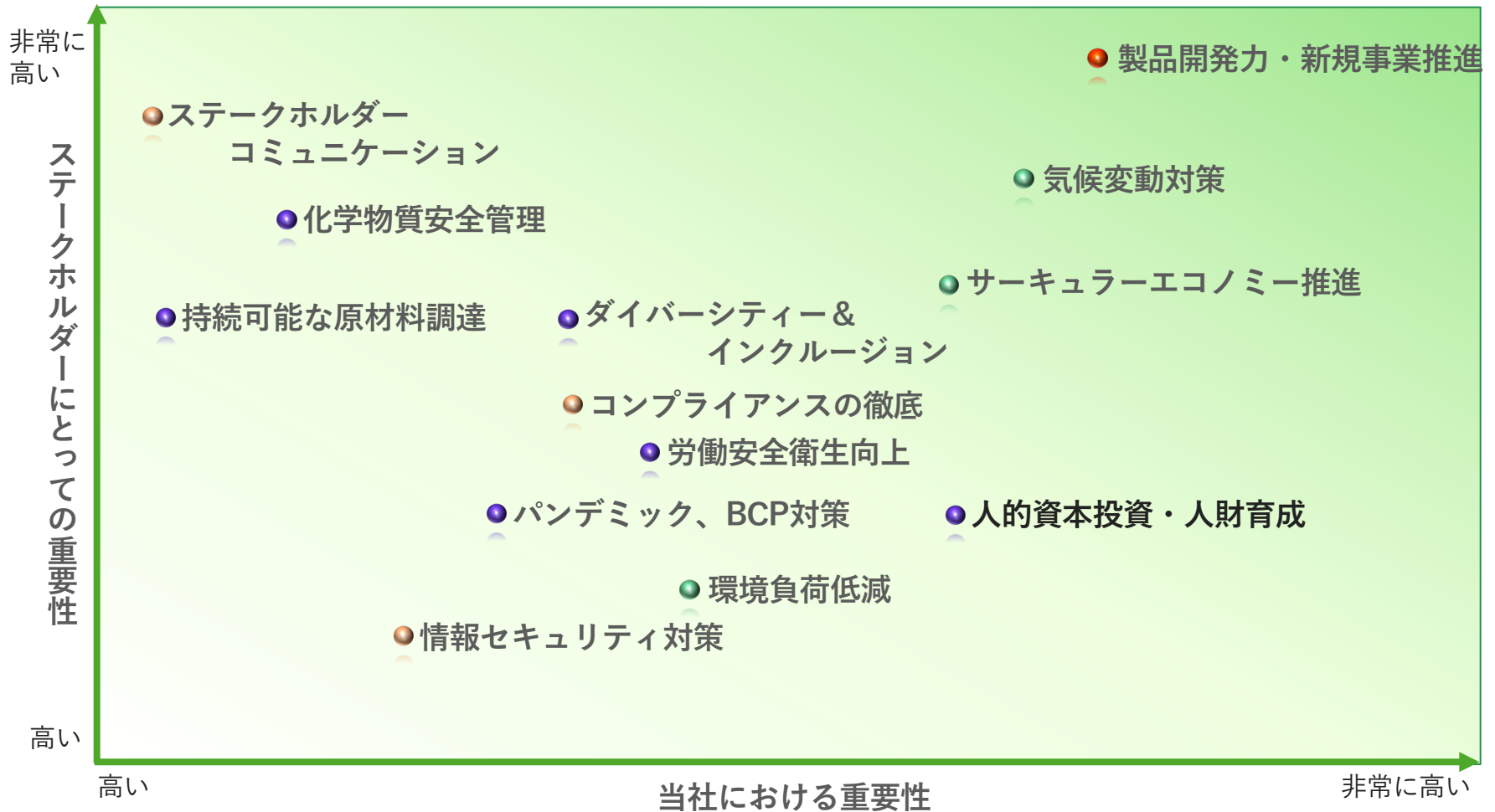
当社グループでは、地球環境と社会の持続可能な発展の為に、CSR基本方針のもと、E（環境）・S（社会）・G（ガバナンス）に関するリスク対応と新たな価値の創出に向けて、全社員が能動的な活動を推進する。



③ ESGテーマー マテリアリティ・マトリックス

ESGの課題をマテリアリティ・マトリックスに抽出し、効率的に取り組む

● 製品開発力・新規事業推進 ● 環境面での課題解決 ● 社会面での課題解決 ● ガバナンス面での課題解決



③ ESGテーマ— 追加マテリアリティについて

人的資本投資・人財育成（知的財産も含む）

- ✓ 中期経営計画の実現には、基本戦略に沿った人的資本投資と人財育成が不可欠
- ✓ 競争優位性確保、イノベーションの創出に必要な人財戦略を推進する

◎人財・知財の獲得

- ・ 多様性確保を目指した採用活動
- ・ 魅力ある研究テーマの創出
- ・ 処遇水準、処遇制度の柔軟な運用
- ・ オープンイノベーション(産学)の推進
- ・ 知財戦略の積極的展開

◎人財の育成

- ・ スキル発揮を主軸とした評価制度
- ・ 働き方に合わせたリスキリング
- ・ 社内外コミュニケーション機会の創出

◎スキルの継承


- ・ ベテラン社員活用による技術の継承
- ・ DXを活用した生産性向上と非属人化

中期経営計画 基本戦略

- ・ 技術主導による競争優位性確保
- ・ 海外事業拡大に向けた事業基盤の強化

③ ESGテーマー 主要マテリアリティ

持続可能な成長に向けて、特に注力するマテリアリティ

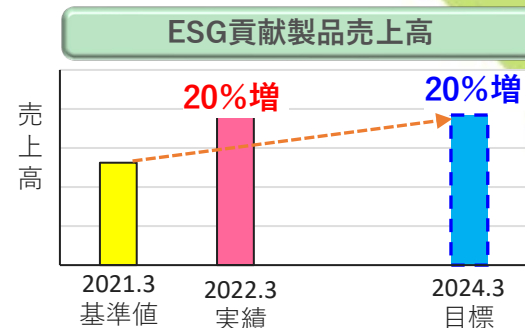
	マテリアリティ	対応するSDGs
<div style="text-align: center;">  E 環境性 </div>	製品開発力、新規事業推進（環境配慮型製品）	      
	気候変動対策（地球温暖化防止）	
	サーキュラーエコノミー推進（資源循環型経済）	
<div style="text-align: center;">  S 社会性 </div>	労働安全衛生向上	      
	化学物質安全管理	
	ダイバーシティ & インクルージョン	
	人的資本投資・人財育成	
<div style="text-align: center;">  G 企業統治 </div>	コンプライアンスの徹底	
	情報セキュリティ対策の強化	

③ ESGテーマー主要マテリアリティとそのサステナビリティ目標 進捗状況

製品開発力、新規事業推進

KPI	目標時期	目標値	2022.3実績
ESG貢献製品 売上高 (当社独自の基準)	2024.3	2021.3比 20%向上	同左 20%向上

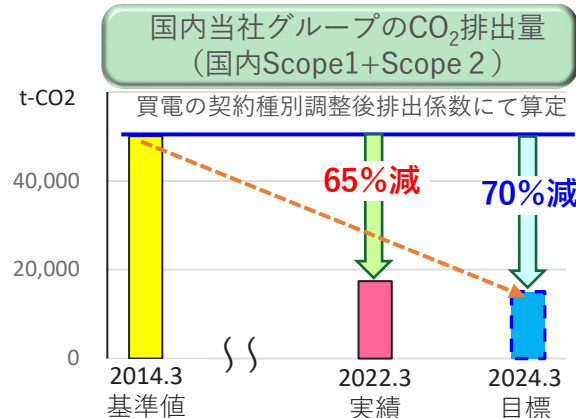
○ 計画通りの拡販に加え、ESG貢献製品の追加登録



気候変動対策（地球温暖化防止）

KPI	目標時期	目標値	2022.3実績
国内当社グループのエネルギー 使用に伴うCO ₂ 排出量	2024.3	2014.3比 70%削減	同左 65%削減

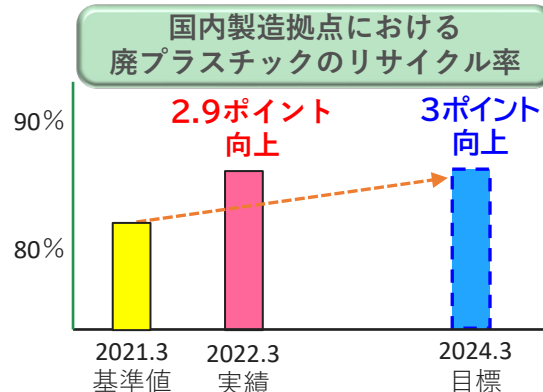
○ 国内全製造拠点で、電力の再エネ化が完了
CO₂排出量の削減 計画通り 進捗度9割



サーキュラーエコノミー推進（資源循環型経済）

KPI	目標時期	目標値	2022.3実績
国内製造拠点から排出される 廃プラスチックリサイクル率	2024.3	2021.3比 3ポイント向上	同左 2.9ポイント向上

○ 廃棄物の分別を推進、
廃プラスチック リサイクル率 向上



③ ESGテーマ—主要マテリアリティとそのサステナビリティ目標 進捗状況

労働安全衛生向上

【活動方針】

- ・ 製造現場の労働災害、事故の撲滅



【進捗状況】

- ・ 労働災害、火災の発生抑制に向けて原因究明と再発防止策を強化していく

ダイバーシティ & インクルージョン

【活動方針】

- ・ 人財の多様性を活かし、社会と当社が共に成長できる職場環境を形成する



【進捗状況】

- ・ 男性の育児休暇取得率が向上するなど、ワーク・ライフ・バランスが向上している

情報セキュリティ対策

【活動方針】

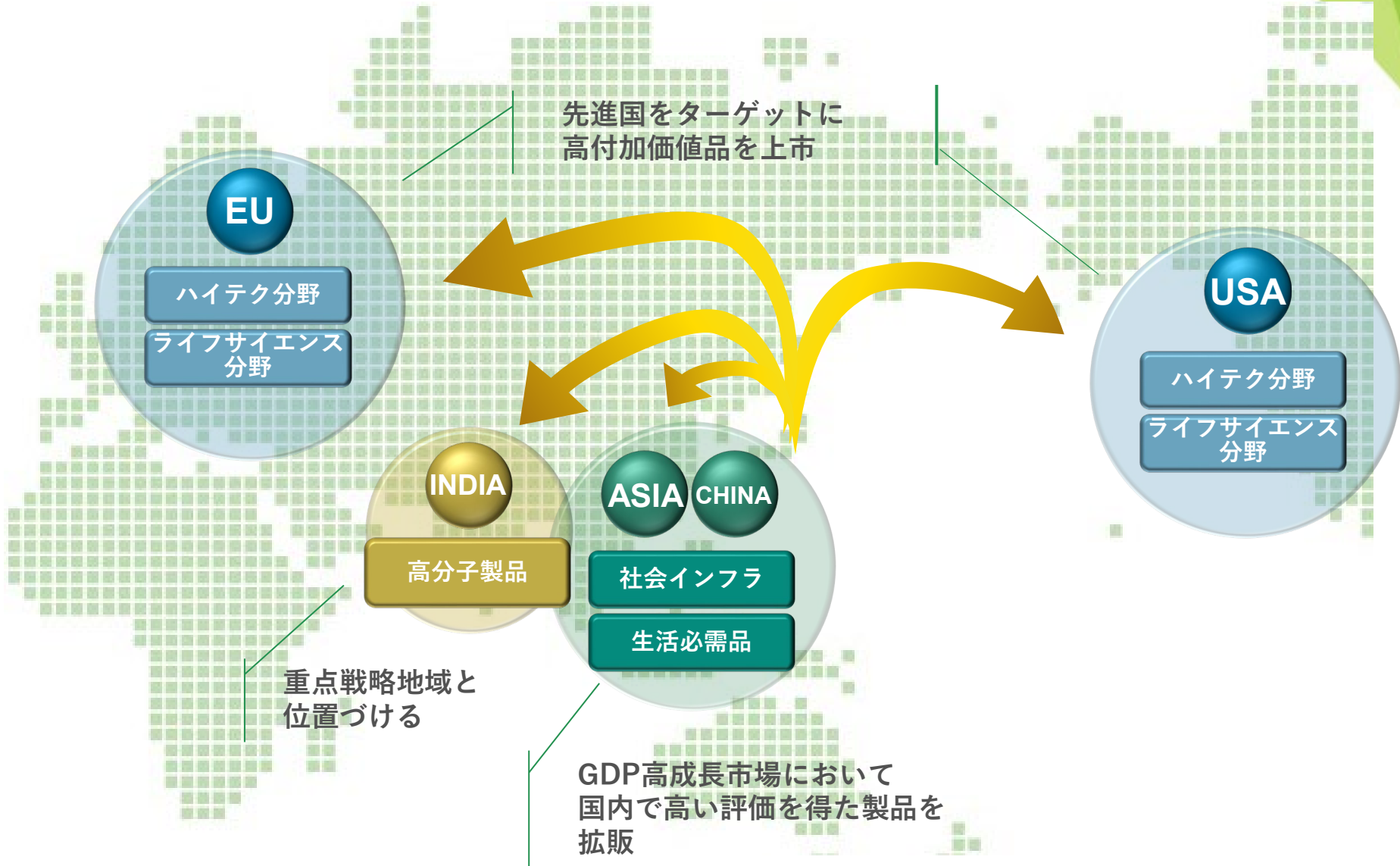
- ・ 事業活動の安定化の為に情報セキュリティの強化に取り組む












【進捗状況】

- ・ サイバー攻撃に関する社員研修の実施
- ・ ITインフラのセキュリティ強化

④ 海外テーマー海外事業の拡大（中長期戦略）エリア別位置づけ



④ 海外テーマー海外事業の拡大（中長期戦略）

セグメント	海外戦略
Color & Functional Products	<p>   欧米市場を主戦場に、顔料分散体の積極的な拡販及び現地生産を目指す。 </p> <p>   欧米市場を中心に、ライフサイエンス分野の機能性材料の本格上市を図る。 </p> <p>    ASEAN、中国・インド市場を中心に電線用フッ素マスターバッチの拡販、繊維用マスターバッチ市場への進出を狙う。 </p>
Polymer & Coating Materials	<p>  インドにてウレタン製品等の高分子製品を積極展開する。 長期的にはインドでの現地生産を検討する。 </p>
Graphic & Printing Materials	<p>  引続き高い経済成長が見込まれるアジア市場をターゲットとし、生産拠点の拡充により旺盛な需要の取り込みに注力する。 </p>

④ 海外テーマ—海外中期計画（2022.3～2024.3）…2022.3進捗報告

連結補正前の単純合算数値

(金額：億円)

海外売上高	2021.3実	2022.3計	2022.3実	2022.3 予実差	2023.3当計	2023.3修計	2024.3計	2021.3: 2024.3
Color & Functional Products	170	174	237	+63	184	225	192	+22
Polymer & Coating Materials	77	82	95	+12	89	96	95	+18
Graphic & Printing Materials	77	77	74	△2	78	78	80	+3
合計	324 ※1	333	406	+73	351	399	367	+42

※1 2021年3月期実績は、収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値

④ 海外テーマ—海外中期計画（2022.3～2024.3）…2022.3進捗報告

連結補正前の単純合算数値

(金額：億円)

海外売上高	2021.3実	2022.3計	2022.3実	2022.3 予実差	2023.3当計	2023.3修計	2024.3計	2021.3: 2024.3
Color & Functional Products	170 ^{※1}	174	237	+63	184	225	192	+22

※1 2021年3月期実績は、収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値

Color & Functional Products 顔料及び顔料の2次加工製品

<概況>

- ・2022年3月期は、自動車業界向けを中心にコロナ禍から大幅な回復となった。
- ・旺盛な需要増を背景に新規案件を獲得した。
- ・コロナ禍でOA機器の巣籠もり特需があり、予想外の増加があった。

<テーマ進捗>

情報電子分野、高機能着色剤、機能製品の開発テーマに注力

海外（ASEAN）では、樹脂コンパウンドを拡販

コロナ禍からの立ち直り等に伴う需要の回復及び拡販



高付加価値品である、IJ分散液・顔料、フッ素用着色剤 順調な出荷



自動車業界向けなど新規需要を獲得
EV化/CASE（電装部品）による需要の拡大を着実に取り込む



海外法人中心に大幅な回復

④ 海外テーマ—海外中期計画（2022.3～2024.3）…2022.3進捗報告

連結補正前の単純合算数値

(金額：億円)

海外売上高	2021.3実	2022.3計	2022.3実	2022.3 予実差	2023.3当計	2023.3修計	2024.3計	2021.3: 2024.3
Polymer & Coating Materials	77 ^{※1}	82	95	+12	89	96	95	+18

※1 2021年3月期実績は、収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値

Polymer & Coating Materials 合成樹脂及び特殊コーティング剤

<概況>

- ・バーコード印刷向けの感熱記録用コーティング剤の伸長が大きい。用途が食品包装、物流（eコマース）、医療などにも拡大しており、需要が増加している。

<テーマ進捗>

北米、中国を中心に水性化、バイオマス化を中心としたESG貢献製品の展開を図る。



中国で水性表面処理剤を中心に目標を達成。

④ 海外テーマ—海外中期計画（2022.3～2024.3）…2022.3進捗報告

連結補正前の単純合算数値

(金額：億円)

海外売上高	2021.3実	2022.3計	2022.3実	2022.3 予実差	2023.3当計	2023.3修計	2024.3計	2021.3: 2024.3
Graphic & Printing Materials	77※1	77	74	△2	78	78	80	+3

※1 2021年3月期実績は、収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値

Graphic & Printing Materials パッケージ用及び広告出版用インキ

<概況>

- ・2022年3月期は、回復しかけたコロナ禍がアジアの一部の国において再燃し、政府主導による活動規制等も相まって、得意先の稼働が低下した。

<テーマ進捗>

ASEAN地区で当社技術力の優位性を生かし、地産地消による需要の獲得を目指す。

△

アジアはコロナ禍の影響大きく前年割れ

本資料の取り扱いについて

- ☑ 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性等がありますことを、予めご了承ください。
- ☑ 本資料に掲載されている情報に関して、当社は最新の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によりデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わずに一切責任を負うものではありません。

【IRに関するお問い合わせ先】

大日精化工業株式会社 広報本部

TEL : 03-3662-1638

Web : <https://www.daicolor.co.jp/>

Mail : d-mailto@daicolor.co.jp